

## 特別対談

# 座談会『慶應連合三田会大会の新たな姿を目指して』

茂木修

2020年  
慶應連合三田会大会  
実行本部長

野間省伸

2021年  
慶應連合三田会大会  
実行本部長

第2回 11月13日(金)

## 「衝撃の“中止決定”」

本来であれば2020年10月18日に開催されるはずだった2020年慶應連合三田会大会。開催に向けて着々と準備を進めていた中、新型コロナウイルスの世界的流行という事態に直面。来場者やスタッフの安全を最優先し、中止という決断に至り、1000人を超えるスタッフや、塾員の間には衝撃が走りました。

前回に引き続き、2020年大会より茂木修実行本部長、2021年大会より野間省伸実行本部長を迎え、2020年慶應連合三田会大会の中止決定までの経緯と、その舞台裏で去来したさまざまな想いを語っていただきます。

### 全員が笑顔で締めくくれる大会にできるのか？

野間実行本部長(以下敬称略)

開催中止の決定の一報を受けたのは、ちょうど緊急事態宣言が発令されて間もない4月初旬でした。当時を振り返ると、このような状況下で開催するのは大変になるだろうとは思っていましたが、実際に中止になるということを伺った時は本当にショックでした。ましてや、色々と準備を進めておられた実行委員のみなさんのショックは計り知れないだろうと。

茂木実行本部長(以下敬称略)

実際には、3月中旬頃から本部の中では中止に向けた活動をしていく可能性があるという問題意識の共有をしていました。2020年の慶應連合三田会大会が目指していたのは、日吉に集まる2万人を超える塾員の方々が1日を過ごしていただいた最後に「本当に楽しかった、ありがとう」と笑顔で帰っていただくということでした。感染が拡大している中でそれが可能なのか?ということ本部のメンバーと話していました。



### 苦しい時間を過ごした中止決定までの2週間

野間 実際に中止という苦渋の決断に至るまでは、本当にさまざまな想いがあったのではないですか。

茂木 一番苦しかったのは、中止を検討し始めてから正式決定までの2週間でした。その間も、実行委員のみなさんは本当に真剣に取り組んで準備を進めてくれていましたから。各本部長との会議では、仮に中止になる場合は、いつまでに決めれば費用がかからないかなどを、撤収に向けた作戦も水面下で進行していました。それぞれの中に「開催できないのでは」という不安はあったと思いますが、その時点では一般の実行委員のみなさんにはそういう話ができません、本当にご苦労をおかけしました。

### ウェブサイトを開設し、若き血の動画投稿を募集

野間 何か別の形で開催することも検討されていたのでしょうか。

茂木 バーチャル開催も考えましたが、その時点から半年の準備では難しいだろうという判断で、中止という選択をとるしかありませんでした。現在はこのような形でウェブサイトを開設し、若き血の動画投稿キャンペーンを行ったり、今回の対談の様子をお伝えしています。また、本来であれば式典にお招きするはずだった卒業50周年の方々を対象に日吉新記念館の見学ツアーを行う予定です。



### 「中止は悔しいけれど、英断だった」という声に救われた

野間 我々後輩としても、幹部の方がお決めになったことだからと信頼して受け入れることができましたが、中止決定から今に至るまで、実行委員のみなさんとは、どのように支えあってこられたのでしょうか。

茂木 みんなが悔しい想いを抱えている中、本当に優しさと思いやりに溢れていました。私から中止を伝えた後も「中止となったことが悔しい」というメールをずいぶんいただきました。「本当だったら開催したかったけれど、本部のみなさんの気持ちもわかる。英断だと思う」という声もかけてくださり、実行本部としては救われました。

### 来年の開催に向けて意志を受け継いでいく

野間 我々の中では2020年の実行委員の方々と一緒に2021年の開催を進めるということも考えられるのではという話も出ていましたが、そこはお任せいただくということになり。では1991年、2001年、2011年でやっていこうという方向性が決まりました。考えれば、何年もかけてずっと準備を進めてこられて、急遽中止を決断せざるを得なくなった後に、また一から始めるのも大変なことだと思いました。

茂木 老兵は去るのみです(笑)。期待しています。

野間 2020年のみなさんの意志を受け継ぎ、サステナビリティやデジタル化など、みなさんが進めようとしていらっしやったことも引き継いでやっていこうと考えています。

茂木 ありがとうございます。

野間 ただ、2021年も本当に開催できるのか、そればかりは我々がいくら考えたところでわからないことです。しかし、準備というのは、あることを前提でやるものなので今は「慶應連合三田会大会を日吉で行う」という大前提で動いています。今年は時間もなく叶わなかった、デジタル化、オンライン化についても、我々にはまだ時間の余裕があります。脈々と受け継がれてきた従来の大会を実施しつつ、そこにe大会券やイベントの配信など、こういったことができるのかを検討中です。

次回は「来年こそは新たな誓い」というテーマで、2021年慶應連合三田会大会の構想についてお届けします。